

ノロウイルス

新型で強力なノロウイルス



1. 変異を遂げた新型ノロウイルス



① 新型ノロウイルス どう変異した？

- ヒトが免疫を持っていない型に変異！

2015年2月以降検出されたノロウイルスはすべて今までに見た事のない型をしている
“**新型に変異したノロウイルス**”です(「GⅡ-4」→「GⅡ-17」遺伝子型分類)

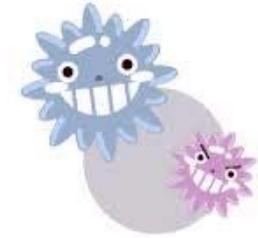
② どのように変異したかというと・・・

ヒトへの感染のしやすさに関わる部分に変異し、ヒトが免疫を持っていない新たなウイルスになっていた

ただでさえ感染力の強いノロウイルスが、ヒトが免疫を持っていない型に変異してしまった

これが何を意味するか分かるでしょうか・・・？

★**感染力大幅パワーアップ**→ノロウイルスが体内に入って来たら有無を言わせないレベルで確実に発症・・・



2. 新型・変異ノロウイルスの予防

[1] 新型・変異ノロウイルスの感染経路(従来のノロと同じ)

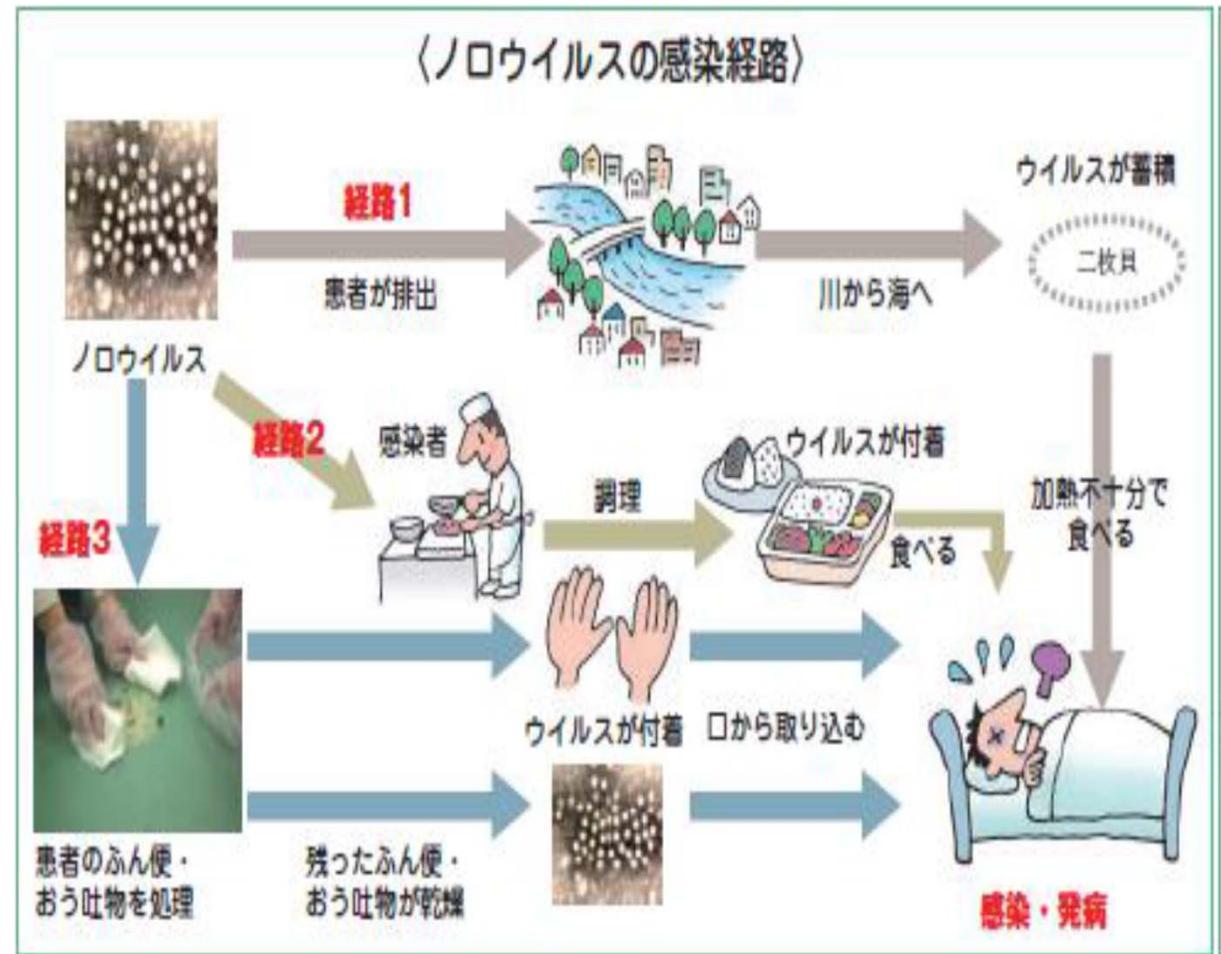
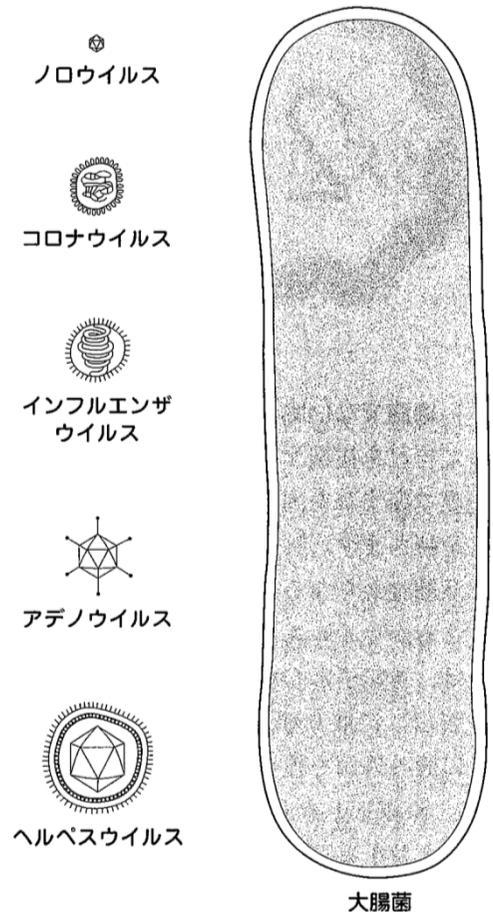
● 予防対策を知るには、感染経路を知ることが一番！

- ① ノロウイルスに汚染された生牡蠣や貝類を十分に加熱しないで摂取した場合
- ② ノロウイルスに感染した人が、十分に手を洗わずに調理をすることで、食品が汚染され、その食品を摂取した場合
- ③ ノロウイルスを含む糞便や吐しゃ物を処理した後、手についたウイルスや不適切な処理で残ったウイルスが口から取り込まれた場合

【 補足 】 細菌とはココが違う

食中毒を起こす細菌の特徴	ノロウイルスの特徴
付着した食品の中で増殖する	食品内では増殖せず人の腸管内だけで増殖する
一年中発生するが、一番多いのは夏場	一年中発生するが、一番多いのは冬場
培養できる	培養できない
	感染力が強く、少量(100個以下)でも発症する

※ノロウイルスと大腸菌の大きさの比較



[2] ノロウイルスの潜伏期間と症状

①潜伏期間

ノロウイルスは感染すると、24～48時間ほどの潜伏期間を経て感染症や食中毒を発症すると言われています

②症状

初期に微熱が出る事が多いのですが、たいていはいきなりつらい症状が起こります



お腹がチクチク痛みだし、やがてこみ上げるような痛みや不快感、吐き気をもよおします、我慢出来なくて1日に何度も吐いたという人も大勢います
吐き気が治まると今度は下痢が続き、水様便が出ると言われています
免疫力の強い大人なら感染しても発症しない場合や風邪のような症状で治まる場合がありますが、免疫力の低下した人の場合は症状が重くなったり、長引く事があるので注意が必要です

さらにアルコールや高温に対する耐性があり、乾燥や酸に強く、水の中も平気と非常にタフです

しかも100以下という少ない量で感染症状を引き起こします
増殖スピードが速く、感染時は100以下だったが、約1日の潜伏期間をすぎてその症状が現れる頃には、吐しゃ物の中に約1万～10万個/g、便中には約10億個/gもの量に増えているのです。最短で1日の潜伏期間で増加するという恐ろしさです

さらに困ったことに、ノロウイルスには多数の遺伝子型が存在する為、一度感染して完治したから大丈夫とは言えません



[3] ノロウイルスを予防

①手洗いをしっかりと、が基本

ノロウイルスの予防だけでなく、

すべての感染症の予防の基本となるのが「手洗い」です



特に外から帰宅した時とトイレの後は、手に細菌が付着している為清潔にしなければなりませんし、調理前や食事の前は食べ物を介して細菌が体内に入らないようにする為に手を綺麗にする必要があります

ノロウイルスは細菌の30分の1～100分の1ほどと非常に小さく、手のしわなどに深く入り込んで体内に侵入するチャンスを狙っています

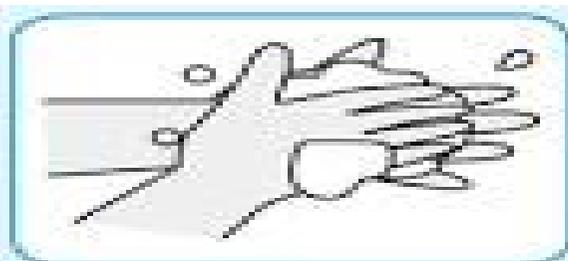
その為、爪の内側やふちの所、指の又の部分、手のひらのしわの中など、洗い方が不十分になりがちな場所を重点的に石鹼を使って丹念に洗いましょう

〈 感染症に対して有効な予防方法は「手洗い」です。正しい手洗いの習慣を身につけましょう 〉

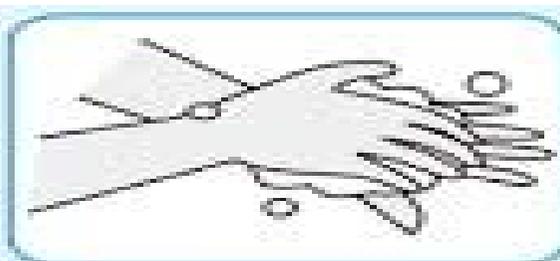


手洗い前も
チェックポイント

◎爪は短く切っていますか？
◎時計や指輪をはずしていますか？



①手のひらを洗う



②手の甲を洗う



③指の先を洗う



④指の間を洗う



⑤親指を洗う



⑥手首を洗う

※①～⑥で30秒が目安です



② 中心部まで十分に加熱処理したものを食べる

カキをはじめ、アサリやホタテ、アカガイなどの二枚貝は海水中で内臓にノロウイルスが蓄積される為、生食は感染リスクが高いと考えられています。目安は85～90℃で90秒以上の加熱、これによって中心部まで十分に火が通り、感染を予防する事が出来ます。

③ 掃除と消毒をしっかりと行い、予防しよう

ノロウイルスは水道の蛇口やドアノブ、便器など、多くの人に触れたり使ったりするものに付着し、それを触った人に二次感染を起こします。

トイレの手洗いなどは一見綺麗なようでも常に水しぶきと共に汚れが飛び散っている事が多く、感染の危険性が高い場所です。

ノロウイルスは通常の石鹼やアルコールでは十分に消毒出来ないため、熱湯又は次亜塩素酸ナトリウムを用いましょう。

④吐しゃ物などの処理には細心の注意をしよう

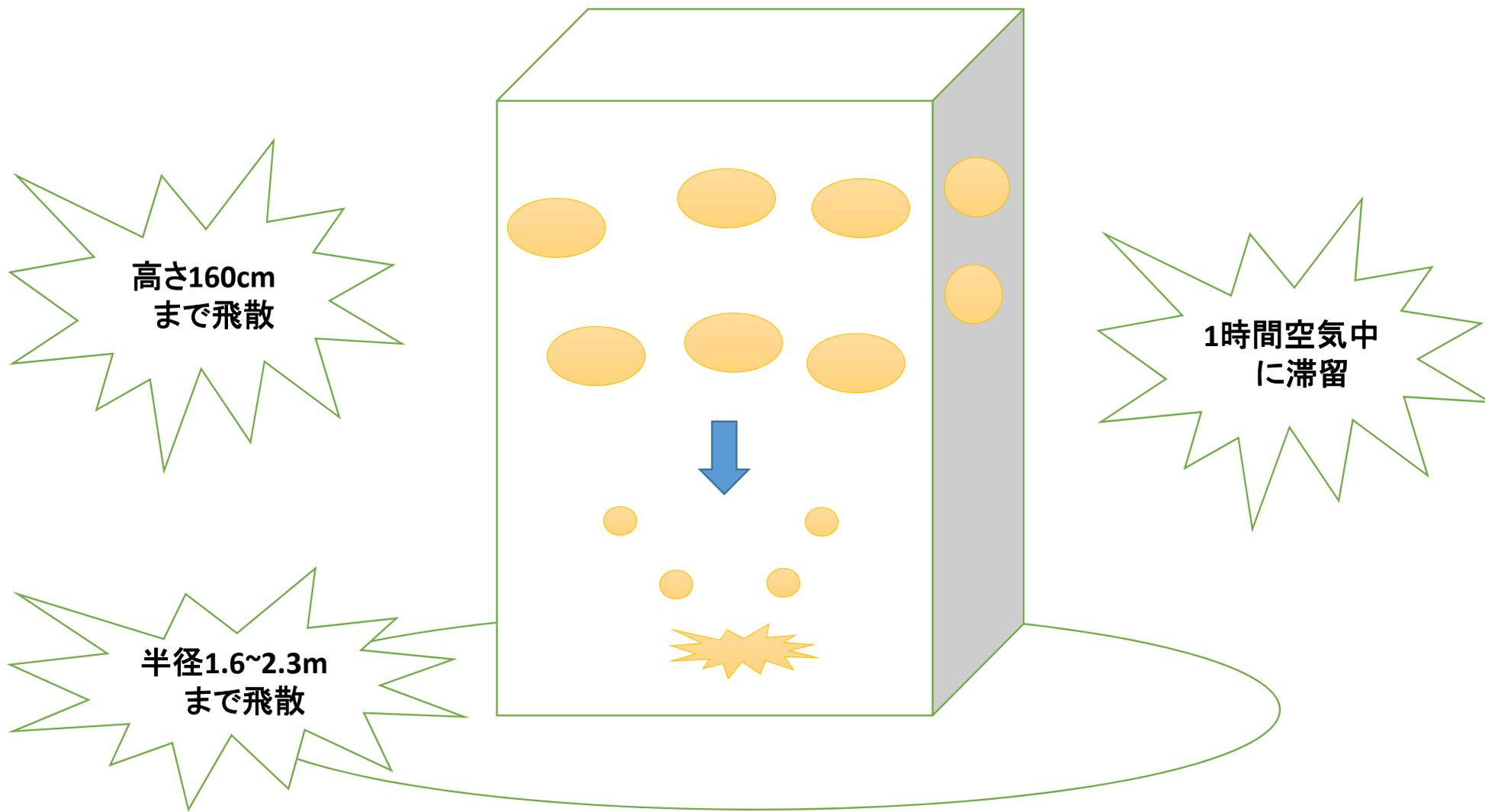
マスクや手洗いを徹底するのはもちろんの事、ノロウイルス感染者による吐しゃ物・下痢便の処理は細心の注意を払って行いましょう

感染を広げない為には、感染者との共用物は避け、吐しゃ物、下痢便、おむつなどを適切に処理するのも重要です

汚染されたシーツ等は周囲を汚染しないように丸めて外しビニール袋に入れ衣類に便や嘔吐物が付着している場合は、付着している物を軽く洗い流す次に次亜塩素酸ナトリウム液(0.05%~0.1%)に浸ける(10分程度)あるいは、85℃で1分間以上熱湯消毒する



模擬嘔吐物を1mの高さから落下させ飛散する高さを測定



使用手順



① 作業前には必ずエプロン・手袋・マスク・シューズカバーを身に付けてください。事前に、抗菌消臭剤のストッパーを解除してください。

② ペーパータオル・ポリ袋を出し、ポリ袋の口は2枚とも広げてすぐに使えるよう準備してください。また、嘔吐物を回収する際に使う、ヘラ・ちり取りを箱から切り取ってください。



③ 嘔吐物全体に凝固剤をまんべんなくふりかけ固めます。凝固剤は100～200倍の吸収力がありますので嘔吐物の量に応じて使用量を調節してください。



④ 次に抗菌消臭剤を嘔吐物全体に行渡るようスプレーします。1回の嘔吐に対してボトル半分～2/3位がご使用の目安です。嘔吐物の水気がなくなり完全に固まるまで待ちます。



⑤ 固まった嘔吐物はヘラ・ちり取りを使って外側から内側に向けて静かに回収します。



⑥ 回収した嘔吐物とヘラ・ちり取りをポリ袋に入れ、(この時上から抗菌消臭剤をスプレーすると効果的)袋の口をしっかりと結びます。口を閉じた袋はもう1枚の袋に入れます。



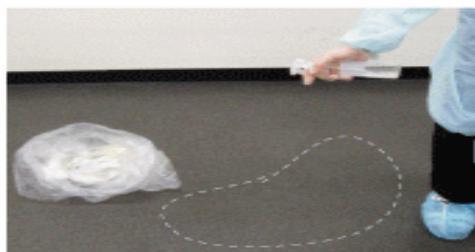
⑦ 嘔吐物が付着していた床とその周囲をペーパータオルで覆い、上から抗菌消臭剤をまんべんなくスプレーします。



⑧ 約5分間浸した後、床に残った嘔吐物をペーパータオルでふき取って、ポリ袋に捨ててください。



⑨ その後嘔吐物のあった場所から半径1mほどの範囲で抗菌消臭剤をスプレーしてください。



⑩ 処理後は使用していたシューズカバー⇒手袋⇒エプロン⇒マスクの順番に外して袋へいれます。※手袋の外し方:汚物が飛散しないよう、包み込むように裏返してはずします。



⑪ 廃棄物が入った袋に上から抗菌消臭剤を十分にスプレーしてください。その後、しっかりと袋を結びます。



⑫ 全ての処理が終わったら石鹸で手をしっかり洗ってください。また、処理後十分に換気を行うことが感染の防止には重要です。



3.介護・看護ケアと感染対策

◎標準的な予防策

『 1ケア1手洗い 』 の徹底が重要!!

- ・日常のケアにおいて入所者の異常を早期発見する
身体の動きや声の調子・大きさ、食欲などが「いつものその人らしくない」と感じたら
要注意です

【 注意のサイン例 】

- ・発熱:ぐったりしている、意識がない
- ・嘔吐:発熱・便に血が混じる、下痢がある
- ・下痢:便に血が混じる、尿が少ない、口が渇く
- ・咳、咽頭痛・鼻水:熱があり痰が絡んだ咳
- ・発疹(皮膚異常):かゆみがある



●食事介助

食事介助の際は、必ず手洗いを行うこと
特に排泄介助後の食事介助は、十分な手洗いをする
おしぼりやエプロン等は、使い捨てにすること
（保湿器は細菌の温床です）
吸い飲み等は、使用する都度洗浄消毒すること



●排泄介助

オムツ交換は、必ずマスク、手袋、施設指定されている防護衣類着用する
交換後は手洗いを行うこと
入所者1人ごとに手洗いや手指消毒が必要です
オムツ交換の一斉交換は感染拡大の危険が高くなるのでやめる
（個別ケア）

4. 感染症発生時の対応

- 発生状況の把握

 - 発生した日時、階、居室等（入所者・職員）

- 感染拡大の防止

 - 手洗い、汚物の適切な処理・消毒、感染者の隔離（同じ症状）
保健所の指導

- 医療処置

 - 脱水予防の処置や症状緩和や回復を促す対応処置

- 行政への連絡

 - 報告要件は感染指針参照

- 関係機関との連携

 - 感染指針参照

 - 家族への情報提供と協力依頼



5. ノロウイルスの治療

ノロウイルスのワクチンや特別な薬はない為、治療は嘔吐や下痢によって脱水症状を起こさないように水分補給をする対症療法が中心となります、病院へ行かなくても自宅療養だけで回復することが可能です

この時に間違えても吐き気止めや下痢止め薬を服用してはいけません
嘔吐や下痢はウイルスを外に出す働きであるので、無理に止めると腸内にウイルスがとどまり続け逆にものすごい勢いで増殖する可能性があり、結局回復が遅れてしまいます

もし服用する場合は、痛み止めや整腸剤、腸の働きを止めない下痢止め薬を選ぶようにしてください



《 感染性胃腸炎に対する感染対策ポイントのまとめ 》

1. 察知の遅れ
2. 嘔吐物処理の手順の誤り(手袋・マスク無しなど)
3. 消毒薬の選択や使用方法の誤り
4. 手洗いの不足(職員・利用者)
5. 飲食等の介助による二次感染(職員→利用者)
6. ショートステイなどの通所者や家族からの持ち込み
7. 行事の開催を通じての感染拡大
8. 職員、利用者の健康状態の把握の不足
9. 利用者同士の直接接触(同室者、同席者等)
10. 職員間の情報共有の不足



(補足)

職員就業規則については、感染症対策関連書類綴参照

就業制限

- ・発症者は、症状がある期間はお勤を控える、できれば症状回復後1日程度は様子を見る
- ・発症者は、症状回復後、1週間程度は、飲食物に直接接触する業務を避ける事が望ましい



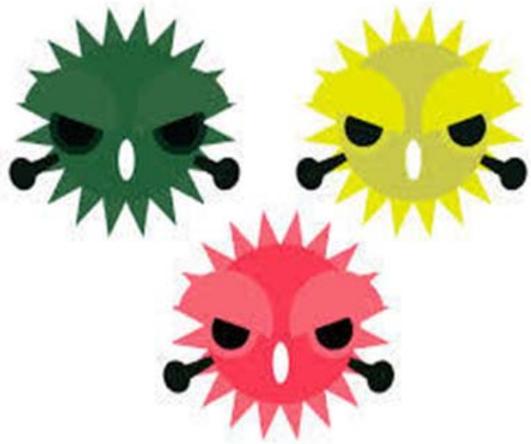
(参考例)

消毒薬の希釈方法(※消毒薬500ml作る場合)

	原液濃度	商品名	方法		用途
			原液(ml)	水(ml)	
0.1%溶液	1%	ミルトンなど	50	450	汚物除去
	5%	キッチンハイター、ブリーチなど	10	490	
	6%	ピューラックスなど	9	491	
0.02%溶液	1%	ミルトンなど	10	490	汚物除去後の施設内環境
	5%	キッチンハイター、ブリーチなど	2	498	
	6%	ピューラックスなど	2	498	

※作り置きはしないでその日に使用する事





ノロウイルス

新型で強力なノロウイルス

ノロウイルスの正しい知識とともに感染防止に努めましょう

